生成AIが広まるまで（2010年代〜現在）

生成AIは、どのようにして広く使われるようになったのだろう

2010年代 — **見分ける・聞き取る**
深層学習（ディープラーニング）で、
画像や声を見分ける力が大きく伸びた



2016年 — **考える**
囲碁のAIが、トップ棋士に勝った



その後 — **書く準備**
文章を扱う新しいしくみ（トランスフォーマー）
が生まれ、大きなモデルが登場した



2022年11月 — **話す・書く**
対話型の生成AIが一般に公開され、
公開から2か月で利用者が1億人をこえた



いまでは — **描く・動画**
文章だけでなく、画像・音声・動画も
つくれるものがある



学校では

2023年7月
文部科学省の暫定的な
ガイドライン（Ver.1.0）

2024年12月
ガイドライン
（Ver.2.0）に改訂

2026年
次期の学習指導要領で、
AIを学ぶ内容を検討
（取りまとめ案）

技術は今も
変わり続けている

※ 出来事は、総務省の情報通信白書（平成28年版・令和6年版）と文部科学省の資料による。サービス名は出していない。